

令和元年度 大学等における放射線安全研修会および協議会総会(令和元年9月6日 東京大学) 参加報告

表記研修会に参加しましたので、簡単に報告をします。配付資料は遺伝子機能解析部門事務室に保管されています。ご覧になりたい方は遺伝子機能事務室までご連絡下さい。今回はアンケート調査(特殊健康診断のあり方に関するアンケート調査、予防規程改定に関するアンケート調査)の結果が掲載されています。

<大学等放射線施設協議会令和元年度総会>

会長挨拶、理事会役員紹介、平成30年度事業報告、平成30年度決算報告、次期役員協議(承認)、令和元年度事業計画案協議(承認)、令和元年度予算案協議(承認)が行われました。今回は森川記念賞の該当がなかったことが述べられました。

<令和元年度 大学等における放射線安全研修会>

プログラム

- ・依頼講演「放射線障害防止法関係の最近の動向」
原子力規制庁 長官官房放射線防護グループ 放射線規制部門 土井亮介
- ・予防規程に関する情報および意見交換
予防規定マニュアルワーキンググループ委員長 柴 和弘
- ・特別講演「大学と国研における環境放射能研究の新展開」
筑波大学アイソトープ環境動態研究センター 末木啓介
- ・「少量核燃料物質使用における管理・教育について」
大阪大学安全衛生管理部 高橋賢臣
- ・「目の水晶体の線量限度引き下げに関する検討内容」
藤田医科大学 横山須美
- ・「特殊健康診断のあり方に関するアンケート調査」
公益財団法人原子力安全研究会 杉浦紳之
- ・大学等放射線施設協議会 活動報告・「教育訓練検討WG 報告」

依頼講演では8月30日までに変更・届け出を行うことになっていた放射線障害予防規程についての講演が行われました。まず、法律名が「放射性同位元素等の規制に関する法律」に変更され、これに伴い、施行規則の手続様式もすべて改正されており、新し

い様式（原子力規制委員会 HP 掲載）を用いて欲しいこと述べられました。次に立ち入り検査の実施状況等について説明がありました。今までは主任者宛に立ち入り検査の通知を行っていましたが、9 月以降は事業所長に通知することになっているとのことでした。実施予定は年 170 件程度で、セキュリティーを優先するとのことでした。指摘事項に加え指導事項も設けたとのことでした。次に最近の事故・トラブル事例等が紹介されました。表示付認証機器の所在不明の事例、密封（気体）が破れる事例が多かったとのことでした。最後に、今後の規制見直しについて、水晶体の等価線量限度の取り入れ、測定品質保証について述べられました。前者は水晶体について現行限度の引き下げの内容で 5 年平均 20mSv/年、いずれの年も 50mSv を超えない、が考えられているようです。3mm 線量当量の採用も検討されているようです。令和 3 年 4 月 1 日施行を予定しているとのことでした。後者は、個人被曝線量サービスは認定された業者により行うこと、サーベイメーターの校正を適切に行うこと、という内容でした。

Q. 届出が 8 月 30 日までだったため、旧法律名を記載している。法律名称変更はいつまでに行えば良いか（30 日以内か）。

A. 法律名称変更については、次の何らかの変更の時でよい。

Q. セーフティーとセキュリティーの立ち入り検査は別々か。

A. どちら（両方）の立ち入り検査を行うか、事前に通知する。

Q. 立ち入り検査時にマネジメント層の者が立ち会うことが難しいかも知れない。

A. 事前に日程調整などを行い、文書で依頼を行う。

Q. 測定機器の適切な校正が盛り込まれる時期は。

A. 水晶体と同様の時期を予定。

特別講演では筑波大学（アイソトープ環境動態研究センター）、弘前大学（被曝医療総合研究所）、福島大学（環境放射能研究所）、日本原子力研究開発機構、放射線医学総合研究所、国立環境研究所による、放射能環境動態・環境評価ネットワーク共同研究拠点の形成経緯、活動内容が紹介されました。福島第一原子力発電所事故による放射性物質拡散の人体影響については広島・長崎・福島県立医大により拠点が形成され取り組みが行われているが、環境影響についてはまだ全容解明が行われていないため、本研究拠点を形成し取り組むことが説明されました。各組織が保存する試料などを活用し、データ集約、アーカイブ化、公開を目指すとのことでした。

少量核燃料物質使用における管理・教育については、東大、京大、阪大で同じ共通教

材を用いて学内教育を実施していることが報告されました。核燃料物質、国際規制物資、人体への影響（放射線は殆ど出ないが、化学的に毒性）、報告書記入の注意、などの紹介がありました。

目の水晶体の線量限度引き下げに関する検討内容では、特に医療関係者の水晶体線量限度を考える必要があり、限度引き下げの検討が行われていることが述べられました。依頼講演でも述べられた、5年平均20mSv/年、いずれの年も50mSvを超えない、3mm線量当量を用いる、に加え、アイマスクの内側に装着する線量計の紹介が行われました。

特殊健康診断のあり方に関するアンケート結果が示されました。実施者も受診者も現在の年2回ということにほぼ従うという傾向があるようです。

大学等放射線施設協議会活動報告

出版委員会より、「放射線安全管理のプロが語る医療従事者のための放射線安全利用スマートマニュアル」が刊行されたこと、日本アイソトープ協会が作成した英語テキスト「Basic knowledge of radiation and radioisotopes (2019)」の第5版監修を行ったことが報告されました。Basic knowledge of radiation and radioisotopes (2019)は近々日本アイソトープ協会 website および大学等放射線施設協議会 website で無償公開されるということです。

第3回森川記念賞は、該当なしでした。

(中川記)